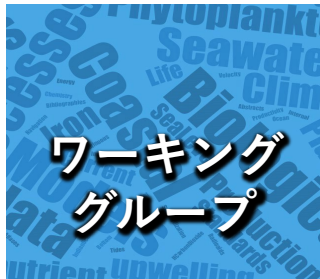


SCOR の活動 (1)



焦点を絞った課題について深く検討を行い、
その成果を発信する
(設置期間：4 年以内)

SCORは、これまでに170の
WG活動をサポート

表 1：SCOR設立当初に設置された5つのワーキンググループと日本人メンバー

WG1	海洋の放射能	三宅泰雄 (コンビーナー)
	Radioactivity in the Ocean	
WG2	海洋と大気中の二酸化炭素	菅原健
	Carbon dioxide in the Ocean and Atmosphere	
WG3	海洋の生産性と植物・動物プランクトン生物量の測定	元田茂
	Measurement of the Productivity of the Sea and of the Standing Crops of Phytoplankton and Zooplankton	
WG4	海水の物理特性	
	Physical Properties of Sea Water	
WG5	国際インド洋調査	市栄誉
	International Indian Ocean Expedition	

✓ **WG 共同議長：**
鳥羽良明(WG101):風波
1993-1996年
青山道夫(WG147):栄養塩
2014-2018年
野村大樹(WG152):海水
2016-2023年
伊藤彰記(WG167):大気
2023-現在

✓ **WG メンバー：** 多数

SCOR の活動 (1)

13WGの内、12WGに日本人が貢献

科学海洋学

共同議長：伊藤彰記(WG167)

WG-167: RUSTED (2022)
Reducing Uncertainty in Soluble aerosol Trace Element Deposition

物理海洋学

WG-160: ATOMIX (2020)
Analysing ocean turbulence observations to quantify mixing

フルメンバー：
井上龍一郎(WG160)

フルメンバー：野村大樹(WG163)
亀山宗彦(WG166)
藤木哲一(WG168)

アソシエートメンバー：
永田俊(WG161)
富田博之(WG162)
石野咲子(WG163)



生物地球科学 海洋学

WG-161: ReMO (2020)
Respiration in the Mesopelagic Ocean: Reconciling ecological, biogeochemical and model estimates
WG-162: OASIS (2020)
Developing an Observing Air-Sea Interactions State
WG-163: Clce2Clouds (2021)
Coupling of ocean-ice-atmosphere processes: from sea-ice biogeochemistry to aerosols and Clouds
WG-166: DMS-PRO (2022)
Developing resources for the study of Methylated Sulfur compound cycling PROCesses in the ocean
WG-168 4D-BGC (2023)
Coordinating the development of gridded four-dimensional data products from biogeochemical-Argo observations

フルメンバー：

平井淳也(WG157)
鈴木光次(WG170)

生物海洋学

WG-157: MetaZooGene (2018)
Toward a new global view of marine zooplankton biodiversity based on DNA metabarcoding and reference DNA sequence databases
WG-158: C-GRASS (2019)
Coordinated Global Research Assessment of Seagrass System
WG-164: CoNCENSUS (2021)
Advancing standardisation of COastal and Nearshore demersal fish visual CENSUS techniques
WG-165: MixONET (2021)
Mixotrophy in the Oceans – Novel Experimental designs and Tools for a new trophic paradigm
WG-169 GLUBS (2023)
Global Library of Underwater Biological Sounds
WG-170 PRIMO (2023)
Physiology and Rates in Microbial Oceanography

アソシエートメンバー：

仲岡雅裕(WG158)
増田龍司(WG164)
鈴木光次(WG165)
横川太一(WG170)

SCOR の活動 (2)



大規模な国際研究プロジェクトの立案・調整のサポート

SCORは、これまでに様々な
大型プロジェクトに関与

これらのプロジェクトの下で
多くの日本人研究者が育ち、
活躍してきている



国際インド洋
調査 (IIOE)



全球海洋生態系
変動機構

J G F S

合同全球海洋
フラックス研究



全球の有害有
毒藻類ブルーム研究



熱帯海洋全球
大気研究計画



世界海洋循環
実験計画



海洋の微量元素・同位体による
生物地球化学研究



海洋大気間物質相互作用研究計画



海洋生物圏統合研究



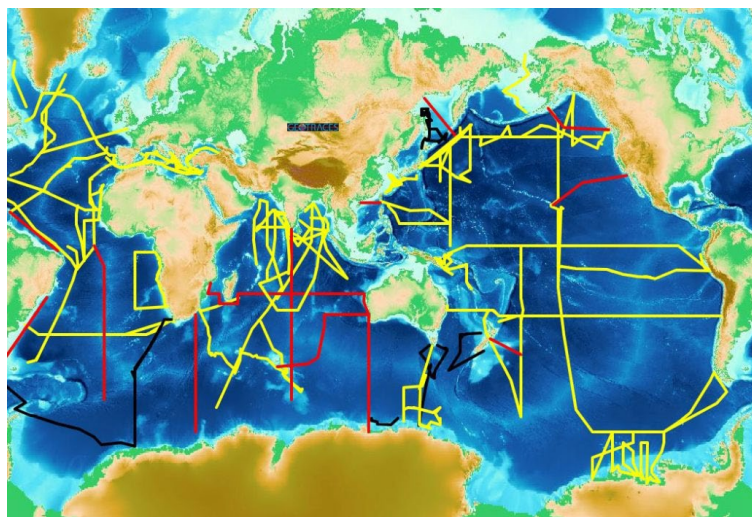
国際静寂海洋実験



国際インド洋
調査 2 (IIOE-2)

GEOTRACES : 海洋の微量元素・同位体による生物地球化学研究 アジア初の共同主席 : 西岡 純

日本主導の測線GP02完遂(2022、2023)



結果概要を査読付き学術誌にて紹介
海洋化学分野以外にも読みやすい内容



Wong, K. H., H. Obata, J. Nishioka, Y. Yamashita, Y. Kondo, T. Kim, A. Mashio, H. Hasegawa (2022), Subarctic Pacific Intermediate Water: An Oceanic Highway for the Transport of Trace Metals in the North Pacific, *Limnology and Oceanography Bulletin*, 31-36.

完遂した観測線(50本)の内、日本主導は7本

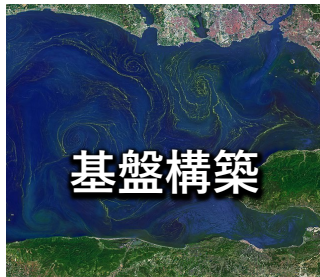
SCOR年報 (2021~2024) :

日本人研究者 査読付き学術誌およそ100本の報文

特集号 : 「海洋における微量元素と
同位体の地球化学」



SCOR の活動 (3)



研究そのものではなく、研究・観測・モデリング等の下支えとなる活動へのサポート

国内予算の確保が難しいこのような活動をサポートすることで、海洋科学研究全体の活性化を図る

- **Changing Ocean Biological Systems (COBS)**

海洋生物に対する環境因子の複合的な影響に関する新たな評価手法の開発

- **Global HAB**

有害有毒藻類ブルームに関する研究基盤構築プログラム

- **IAPWS/SCOR/IAPSO Joint Committee on Seawater**

海水の状態方程式を検討する委員会



Thermodynamic Equation of State-2010 (TEOS-10)の作成

- **International Ocean Carbon Coordination Project (IOCCP)**

海水中の炭素に関連する観測ネットワーク整備を、技術的側面や協力強化を通じて促進

- **Southern Ocean Observing System (SOOS)**

南大洋観測網の構築

SCOR の活動 (4)



SCOR 設立当初から、海洋科学分野での能力構築に注力

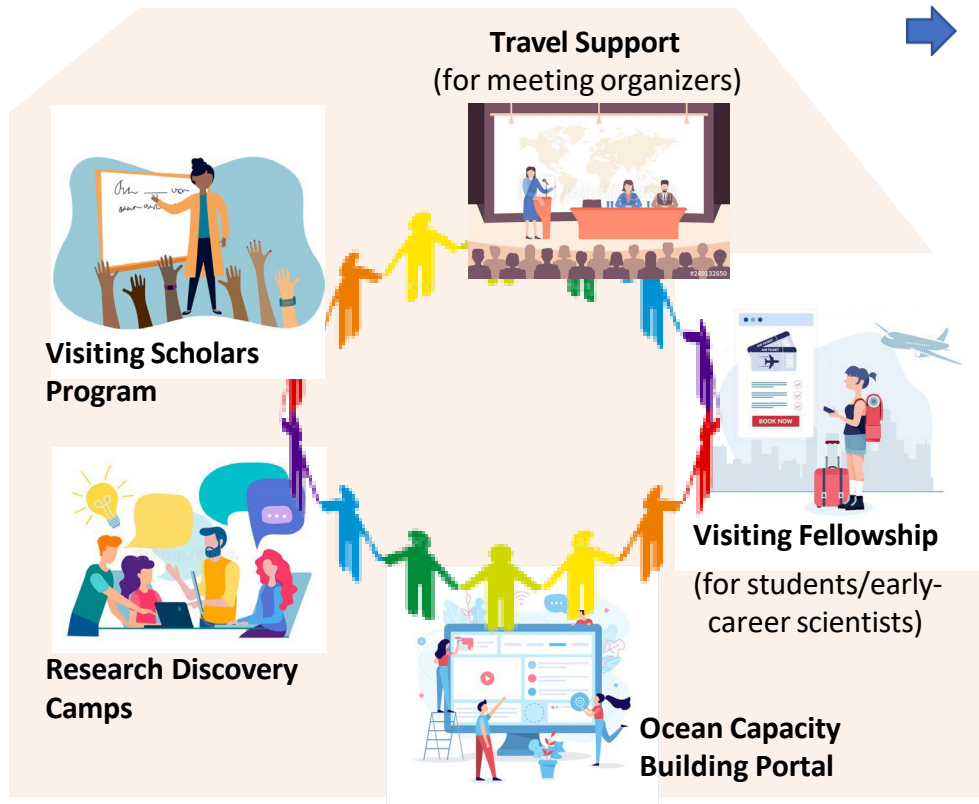
特に、開発途上国の研究者や若手研究者などが SCOR の活動に参加すること、研究を活発に行っている研究者らとのネットワークを構築することを重視



独自の委員会を設置

SCOR Committee on Capacity Building

各ワーキンググループは能力構築の要素を取り入れることが必須



SCOR : 日本の貢献

- ✓ SCOR **年会(総会)開催**: 東京(1970)、札幌(2002)、富山(2019)
- ✓ SCOR **副議長**: 浅井富雄(1988-1994)、角皆静男(1998-2002)、谷口旭(2002-2006)、田口哲(2010-2014)、張勁(2018-2022)、升本順夫(2024-現在)



富山城前に集合した2019年SCOR年会参加者

- SCOR などの国際協力を通じて、日本の学界は海洋科学研究を世界的に牽引する立場になっている

SCOR : 日本への影響

- 日本の対応体:

日本学術会議 海洋科学研究連絡委員会、
2005年からは地球惑星科学委員会SCOR分科会

- ✓ SCORが立案や運営に参画した国際共同研究やワーキンググループに日本人研究者が多数参加し、**日本の海洋科学研究の振興と普及を促進**

＜世界の海洋研究の動向を探るレーダー、研究成果発表の場、
国際的な研究推進の場＞

- ✓ **多様な学協会の連携促進** （関連17学協会が連携した「深海アルゴフロートの全球展開による気候・生態系変動予測の高精度化」が日本学術会議マスタープラン2020の重点課題に採択され、同未来の学術振興構想(2023年版)の学術の中長期研究戦略にも採択

＜文部科学省事業 世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)に2023年度採択された「変動海洋エコシステム高等研究所(WPI-AIMEC)」の基盤となった＞

- ✓ **海洋基本法の制定・海洋基本計画の策定・総合海洋政策本部の設置へ貢献**
海洋科学研究連絡委員会からの提言など

私たちと SCOR



2021
2030 United Nations Decade
of Ocean Science
for Sustainable Development

持続可能な開発のための
国連海洋科学の10年

私たちの望む海

-  きれいな海
-  健全で回復力のある海
-  生産的な海
-  予測できる海
-  安全な海
-  万人に開かれた海
-  夢のある魅力的な海

